

NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.27 平成29(2017)年3月

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：ホームカミングデイ前日の海外支部歓迎会、上段右：フィリピン支部新年会での集合写真、下段左：第12回ホームカミングデイの名フィルの公演、下段右：2016 TEDxNagoyaU

Upper Left: Welcome party on the eve of Homecoming Day; Upper Right: Group photo from the New Year party of the Philippines Branch; Bottom Left: Concert of the Nagoya University Homecoming Day; Bottom Right: 2016 TEDxNagoyaU

Contents

特集1 名古屋大学全学同窓会代表幹事就任のご挨拶 2
Greetings from NUAL's new Chief Secretary

特集2 名古屋大学全学同窓会近況と第12回ホームカミングデイ 3
NUAL update and the 12th annual Homecoming Day

同窓会ニュース 5,10
NUAL News

活躍する会員たち 6
NUAL People in Action

事務局からのお知らせ 16
From the NUAL Office

今号では、14年間にわたり名古屋大学全学同窓会の代表幹事を務められた伊藤義人先生から全学同窓会近況と第12回ホームカミングデイのご報告を、新たに代表幹事にご就任の和田壽弘先生からご挨拶をいただきました。活躍する会員たちのコーナーでは、テレビ業界や国連でご活躍の本学卒業生のお二方にお話しいただきました。

In this issue Prof. Yoshito Itoh, who served as NUAL's Chief Secretary for 14 years, updates us on recent NUAL news and our 12th annual Homecoming Day. Our newly appointed Chief Secretary, Prof. Toshihiro Wada, also introduces himself. In our NUAL People in Action column we hear from two Nagoya University alumni working in the television industry and for the United Nations.

名古屋大学全学同窓会代表幹事就任のご挨拶

Greetings from NUAL's new Chief Secretary



名古屋大学全学同窓会代表幹事
和田 壽弘

昨年10月15日の第12回ホームカミングデーの折に開催されました全学同窓会評議員会にて、代表幹事に選出されました和田壽弘でございます。前任の伊藤義人先生の後を引き継ぐこととなりました。伊藤先生は14年の長きにわたって代表幹事を務めてこられました。昨年3月末に名古屋大学を退職し、独立行政法人国立高等専門学校機構の岐阜工業高等専門学校校長に赴任されたのを機に、任期満了をもって代表幹事を退かれました。

私は平成23年度より全学同窓会幹事会の部局選出幹事を務め、平成24年度からは責任幹事を務めてまいりました。伊藤先生の退職準備が進む中、代表幹事の職は学内の教員が務めるべきであるという考えを先生と共有し、昨年2月に全学同窓会代表幹事特別補佐に任じられました。この時までには、それぞれ年に数回開かれる全学同窓会幹事会や実務を議論する責任幹事会には出席しておりましたが、同窓会全体の活動についての特定のイメージは持っていませんでした。特別補佐に就いてからは同窓会についての様々な情報をいただき、徐々に同窓会活動の全体像が明確となってきました。それにつれて、前任の伊藤先生の同窓会に対する「下支え」

のご苦勞が、遅ればせながら、理解できるようになりました。

このたび代表幹事という重要な役職を委され、身が引き締まる思いです。かつて、自身の出身母体である文学研究科・文学部の長を平成20年度と21年度に務めまして、重責はこれで終わって定年退職まで教育研究に専念できるとばかり思っておりました。私の専門はインド哲学でして、人文学の中でも存続が危ぶまれている「絶滅危惧種」です。自慢できる話ではありませんが、それだけ社会との関わりが希薄な分野だと思われています。代表幹事は、関わりが濃厚な分野の教員が務めた方が良くはないかと思わないでもありませんが、任じられた以上は努力する所存です。

名古屋大学全学同窓会の活動の特徴は、2つあるかと思えます。第1に、大学と社会を結ぶ組織として、大学と協同して社会貢献を目指します。第2に、卒業生や修了生のみならず、教職員、旧教職員、短期留学生も会員として、現役学生も準会員として活動に参加します。

この活動の舵取りをしていただくのが、豊田章一郎全学同窓会会長をはじめ7名の副会長、幹事と顧問の役員、および評議員の方々です。代表幹事の任務は、同窓会の高邁な目的に向かって、一方で役員と評議員の下支えをし、他方で会員や準会員の皆様のご協力のご鞭撻を受けて、会がさらに発展するよう尽力することです。皆様が益々誇りに思うことができる全学同窓会にしたい、と考えております。お力添えを心よりお願い申し上げます。

和田 壽弘 教授

略歴

1979年4月 名古屋大学文学部卒業
1982年3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了
プーナ大学（インド）留学（1979年9月～1980年9月、1984年10月～1986年12月）
1987年4月 名古屋大学文学部助手
1988年10月 プーナ大学大学院修了（Ph.D. 取得）
1990年4月 名古屋大学文学部助教授
1998年7月 名古屋大学文学部教授
2002年10月 名古屋大学より博士（文学）学位取得
2001年4月～8月 オックスフォード大学ウォルフソン・カレッジ（イギリス）客員研究者

2001年8月～9月 ウプサラ大学（スウェーデン）客員教授
2006年4月～2008年3月 名古屋大学教育研究評議会評議員
2008年4月～2010年3月 名古屋大学大学院文学研究科長・文学部長
2010年4月～2012年3月 名古屋大学教育研究評議会選出評議員
2013年11月～12月 インド・哲学研究会議客員教授

受賞

第36回日本印度学仏教学会賞（1994年）、第25号鈴木学術財団特別賞（2008年）、第26回中村元東方学術賞（2016年）

名古屋大学全学同窓会近況と第12回ホームカミングデイ

NUAL update and the 12th annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤 義人



1. 役員の交代

平成28年10月15日（土）のホームカミングデイの日に開催された第15回全学同窓会の評議員会で、創設以来14年間務めた代表幹事を私は退任しました。私の本務が国立岐阜工業高等専門学校校長となり、名古屋大学では招聘教員（客員教授）となり教育研究は名古屋大学でも継続していますが、全学同窓会活動の学内調整のため、代表幹事を学内の人に任せた方がよいと考えました。後任は、幹事会の推薦に基づいて文学研究科の和田壽弘教授（インド哲学）にお願いしました。私は、もう少し全学同窓会事務と新代表幹事を助けるということで副会長になりました。なお、豊田会長と他の副会長は全員留任になりました。また、寛関西支部長は顧問になりました。

2. 第12回ホームカミングデイ

第12回ホームカミングデイが、平成28年10月15日（土）に、「持続可能社会の実現に向けて」をテーマとして行われました。参加者は約4,300名でした。なお、昨年度の第11回目まではホームカミングデイ（HCD）のディレクターを私がしていましたが、今年度はディレクターをおかないで実施されました。

当日は天候にも恵まれ、盛況なホームカミングデイになりました。まず、午前10時からシンポジオンで、学士院賞（平成28年度）を受賞された宮本憲一元滋賀大学学長（昭和28年名古屋大学経済学部卒業）の講演会「アジアへ日本公害史の教訓を—公害は終わらない—」（経済学研究科企画）が実施されました。公害問題に関心のある市民だけでなく、豊田章一郎全学同窓会会長、松尾清一総長、および本部役員なども参加して、シンポジオンはほぼ満員になりました。

日本の3大公害問題をとりあげ、まだ、問題が解決していな

い水俣病と比較して、イタイイタイ病が完全に解決をしていることを誇ってよいということでした。大変印象深い講演でした。

豊田講堂のアトリウムでは、経済学研究科の研究活動の展示もされました。

名古屋大学の建物を緑色の線画で描いたビニールのオリジナルバックの中には、同じデザインのペットボトルの水と当日ガイドなどが封入され、参加者全員に配布されました。

いつものように、13時半からは豊田講堂でメイン行事の「名古屋大学の集い」が、若月弘一郎さん（NHK アナウンサー、平成14年名古屋大学情報文化学部卒業）の司会で始まりました。第1部は、松尾総長と豊田会長の挨拶の後、全学同窓会前代表幹事（副会長）として、私からいつものようにホームカミングデイの趣旨と実施工事および全学同窓会の近況を報告しました。今年は、卒業年の末尾に「6」の付く周年記念卒業生・修了生を招待し、500人以上の方々に参加しました。

次の国際交流貢献顕彰の表彰では、全学同窓会のインドネシア支部長のリザル アファンディ ルクマンさん（インドネシア経済担当調整大臣府次官）、上海支部の上海交通大学の楊弋涛教授とマレーシア支部のマラヤ大学のジャミラ モハマト上級講師の3名に賞状と記念品が授与されました。

「名古屋大学の集い」の第2部は、いつものように名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートが行われました。今回は、指揮者に東京芸大大学院に在籍中の太田弦さんと地元で活躍中の島田真千子さん（バイオリニスト）を迎えました。

プログラムの前半は、序曲「歌劇ルスランとリュドミラ（グリムカ）」と、島田さんがソリストの「ヴァイオリン協奏曲（ブラームス）」でした。後半は、交響組曲シェエラザード（リムスキー・コルサコフ）でした。いずれも、若い指揮者の下での大変な熱演でした。特に、シェエラザードの中の各楽器のソロパートが大変よく、非常に楽しめました。

ホームカミングデイの他の行事は、いつものように各部局と同窓会行事とともに大学施設公開が行われました。また、本のリユース市、農産物の販売、スパコン見学、あかりんご隊科学実験や親子ふれあいサッカー教室などがいつものように盛況でした。昨年からは始まった企画に「パパ」が加わった、「名大パパ+ママカフェ」という卒業生向けキャリア支援企画もあり



左から豊田会長、松尾総長、伊藤副会長



島田真千子氏（ソリスト）と太田弦氏（指揮者）



国際交流貢献顕彰受賞者との記念写真

ました。

3. 全学同窓会の今後の課題

全学同窓会設立後14年が経過しましたが、今後の課題は設立当初からあったものと、新たに発生した課題の両方があります。

1) 財政基盤の拡充

同窓会カード（名古屋大学カード）の事業収入が1年間で1,100万円を超えて、大学支援の増額や海外支部への財政支援なども可能になっています。しかし、同窓生からの支援会費や寄付は減少気味で、新規事業の創設など今後の財政基盤の拡充はあいかわらず大きな課題です。

2) 大学支援の拡充

年2回の大学支援事業費は、増額していますが、現在置かれている大学の窮状からすると、全学同窓会がもっと財政的および人的に大学を支援できるようになる必要があります。

3) 同窓会経営の人材育成

最も大きな課題は、全学同窓会の活動を直接支援いただける会員の確保と組織化です。国内支部においても、熱心に活動いただける会員もいますが、高齢化がすすんでおり、若手の会員の理解と活動が全学同窓会には重要と思います。部局同窓会でもそうですが、若手の会員は同窓会活動をして何のメリットがあるかということ、よく聞きます。それに対しては、同窓会の人的なネットワークは種々の活動で役に立つものであり、参画する中で、提案型で活動の意義を見つけ出してほしいと回答しています。存在感のある全学同窓会になるために、さらなる人的ネットワークの強化が必要だと思えます。

4) 新たな海外拠点の拡充とネットワークの強化

これまで、アジア地域に15の海外支部を設立しましたが、今後は北米、ヨーロッパおよびアラブ・アフリカ諸国の支部設立と、これらのネットワーク化が課題です。学士会とのさらなる連携も必要かもしれません。

5) 卒業生等電子名簿の支援

約7割の卒業生の電子名簿を大学は管理していますが、さらなる充実を支援する必要があります。

4. おわりに

名古屋大学全学同窓会は、上述したように課題が山積しています、しかし、後ろを振り返ると、少しは足跡を残し、当初考えた設立の理念に沿って進んでいるのではないかと思います。今後の皆様の参画型のご支援をお願い致します。

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告 「科学技術の課題と展望」（講師：濱口道成前総長・科学技術振興機構理事長）

名古屋大学全学同窓会代表幹事 和田 壽弘

名古屋大学全学同窓会第3回講演会が平成28年12月9日（金）に、理学南館坂田・平田ホールにおいて開催されました。全学同窓会と一般社団法人学士会との共同の下に開催され、本学の後援を受けました。学生、教職員、名誉教授、一般市民など約180名の参加がありました。一昨年度の第1回講演会では元駐中国日本大使の丹羽宇一郎全学同窓会副会長に「グローバル化と日本の将来」という題で話していただき、昨年度の第2回には中日本高速道路株式会社（NEXCO 中日本）社長の宮池克人全学同窓会副会長に「高速道路 四方山話」をお話いただきました。いずれも興味深いご講演で、今回も期待が高まり多くの方に聴講に来ていただきました。

今回の第3回講演会では、講師には本学前総長である濱口道成国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）理事長をお迎えし、「科学技術の課題と展望」と題してお話いただきました。司会は私が務めました。まず講師紹介があり、続いて渡辺幸重学士会事務局長より挨拶がありました。

濱口先生の講演では、パワーポイントで膨大な数量的資料を提示して説得力ある論を展開されました。理科系の各分野における研究論文の被引用回数上位10を国別に整理して日本と先進国と比較し、日本の現状の問題点を明確に指摘されました。特にイノベーションを起こす力が弱っていることが最大の問題であると警告されました。これを克服するためには、

「縦割り社会」を克服して研究機関と企業との交流や、国際共同研究ができる環境を、研究費のみならず人材育成を含めて整備することが急務であることを力説されました。そのためには、ハーバード大学のクリステンセン教授が説く勇気と5つのスキルを強調されました。勇気とは、リスクを分析して引き受ける勇気のことです。スキルとは、関連付ける力、質問力、観察力、実験力、人脈力の5つです。勇気とスキルは学習によって身につけることが可能であるという点を強調されました。

講演後の質疑の時間には、本日の講演は政府中枢部に聞かせるべきではないか、濱口先生がもう一度名古屋大学総長になったらどのようなことを試みるつもりか、講演で言われた有為の人材は利他の精神がなくてはならないのではないか、などユーモアに富みながらも本質的な質問がなされて、多くの参加者の首肯を得ました。

講演会終了後にグリーンサロン東山において夕食会が開催され、本学役員等を含め39名が参加しました。最初に柴田昌治副会長と松尾清一総長から挨拶があり、続いて佐々木毅学士会理事長の乾杯の発声により会は始まりました。終了近く、岡田邦彦副会長と木村彰吾本学理事の機知に富んだ挨拶があり、和やかな雰囲気の中で、伊藤義人副会長の締めめの挨拶がありました。夕食会は、意見交換および親睦を深める場として大いに意義のあるものとなりました。



講演会 濱口先生



夕食会 柴田副会長の挨拶

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第27回は、文学部を卒業されテレビ業界でご活躍の高橋淳さん、医学部を卒業され国連の外交官としてご活躍の鷺見学さんにお話しいただきました。

“NUAL People in Action” introduces Nagoya University alumni and the exciting work they do in various industries. In this 27th edition, we hear from Mr. Atsushi Takahashi, a graduate of our School of Letters who currently works in the television industry. We also hear from Dr. Manabu Sumi, a School of Medicine graduate who is now a diplomat with the United Nations.

たかはし あつし
高橋 淳さん



■略歴

1932年	名古屋市に生まれる
1955年	名古屋大学文学部英文科卒業
同年	三重県立尾鷲高校英語教師
1956年	中部日本放送株式会社に勤務
1971年	(株) 国際テレビフィルムに勤務
1978年	(株) トーキョービジョンを設立。代表取締役
2013年	同社顧問

■わが「山スキー英語」奮戦記

私は現在満八十四歳と五ヶ月（2016年11月）、日本の敗戦が中学一年生の時。それまで『敵性語』であった英語が、津波のように襲いかかってきました。しかし、英語の教科書はなく、運動場の片隅にある砂場に腰を下ろして、先生の言う英語のスペリングを必死になって書き留める事から英語の授業は始まりましたが、アルファベットすらも満足に書けない私達が筆記する英単語は誤字だらけ、その上、今日に至るまで『発音記号』の読み方を教わった記憶も全くありません。

人生のすべてにおいて『基本こそが大切』と言う鉄則の中であって、英語の基礎はガタガタ。妙なたとえになるかも知れませんが、どんな山道でも滑る事の出来る山スキーの腕前の持ち主でも、スキー学校に入れば『ヘッピー腰』の初心者で「最初」からやり直しを受けるのと同じ、私の英語も、言ってみれば、この『山スキー英語』以外の何ものでもありません。完全に『オーソドックス』からは離れております。

しかし、いま自分の人生を振り返ってみる時『英語をやっている』本当に良かったと、つくづく思います。もし『英語』を身につけていなければ、確実に、私の人生は



赤坂時代のトーキョービジョン社内にて

もっと『つまらない』ものになっていたのではないかと思います。英語のお陰で、世界中に良い友達が出来、今の仕事を心ゆくまでエンジョイ出来、八十四歳の今になるまで働き続ける事が出来るようになったと考えています。しかも、私は大学時代、余り真面目に勉強しなかった方です。卒業後、これでは駄目だと一念発起して努力。当時発足した『英検』の一級に合格し、続いて『通訳ガイド』の国家試験にも一発で見事に、そして奇跡的に合格しました。若い時に学んだ事は、その後、成人したときでも『接ぎ木』がすぐに出来るように、ドイツ語では、ゲーテ・インスティテュートの中級試験に合格、その余勢を駆っ



東京湾での貸し切り屋形船々上での『日仏カラオケ歌合戦』で挨拶



エミー賞のヨーロッパ最優秀作品の選定審査会に「アジアの代表」として参加。アメリカ大陸代表の審査員はブラジル人。後はすべて地元のヨーロッパ人。南仏のピアリッツの高級ホテルにて

て、フランス語の三級試験にもパスし、ロシア語もそこに出来るようになりました。

大学卒業後、尾鷲高校で英語の教師、CBC テレビの編成、NY 留学、ネットワーク業務、および営業デスクを経験し、松方三郎氏の国際テレビ・フィルムを経て、約40年前に現在の（株）トーキョーヴィジョンを設立。世界中から面白いテレビ番組を輸入し、また輸出もし、番組の制作も手がけ、現在では主として日本テレビ（名古屋では中京テレビ）で、毎週又は隔週の夜7時または8時から放送される『世界まる見えテレビ特捜部』と言う約26年間続いている長寿番組（高視聴率ベスト20の常連）の制作を担当しております。

そのために、欧米は勿論のこと全世界のテレビ局、プロダクション、番組配給会社と日々連絡を取り合い、交渉を重ねなければならず、英語は仕事上の必須で、社員の全員が、TOEIC の900点以上の取得者であるか、あるいは、数年にわたるアメリカ留学の経験者です。こうした環境の中で、会社を経営してゆく私自身の英語力も、たとえそれが、『山スキー』的であろうが、社員の上に立つ以上は絶対に、社員に負けない確固としたものでなければなりませんでした。

私はそれだけでなく、ドイツ人やアメリカ人を我家に招いたり、ホームステイをさせたり、彼らがグループで番組のセールスに来日する時には、東京湾に屋形船を借り切って『船上国際カラオケ合戦』をしたり、尺八コンサートや草笛演奏会を開催したり、また時には、社内で、鍋料理を作って供宴したりしました。こうして築いた人脈は宝物になり、逆に私が欧米に行く時には、トーキョーヴィジョンのために一番よい番組を紹介してくれるようになりました。当

社の社員が何処の国に行こうとも、トーキョーヴィジョンの社員であると言えば、信頼され、尊敬されるようになりました。これが、今の会社の誇りであり宝です。

旧ソ連邦時代に、カーニンググラドの国際映画祭に特別招待されたり、ブルガリアの国際フォークダンス・フェスティバルでは審査員を頼られました。最近では、映画のアカデミー賞に匹敵するテレビ番組の最高賞であるエミー賞のヨーロッパ・ドキュメンタリーの審査員をアジアの代表としてやってくれないかと依頼されました。こうした話は、昨年自費出版しました『これが人生!これがテレビ!』にも書きましたので、この拙稿の最後としては、本には書かれなかったエピソードをひとつ紹介して締めくりたいと思います。

KF という日本人の番組輸入会社の者が、私の親友であるチャールズを騙して、9本シリーズの『アメリカ大リーグ物語』をNHK に売りながら、その代金を支払わない事をチャールズから知らされた私は、すぐにKF を裁判に訴えてやろうと思い立ち、裁判を起こす資格を得るためにチャールズの会社の東京支社長の肩書きを作ってもらい、お金がないので、弁護士も付けずに、今までの経緯をすべて邦訳して、簡易裁判所に訴えてやりました。勿論裁判には勝利し、チャールズはお金は取り戻す事が出来ました。彼はその後全米公共放送（PBS）の販売部長に抜擢され、お陰で、当社はPBS というアメリカ有数の会社の人脈を得て、最高に優遇されるようになりました。ビジネスは人と人のつながりです。『山スキー』英語でも、身につけておいてホントに良かったと思います。『芸（英語）は身を助く』です。

す み まなぶ
鷺見 学さん



■略歴

昭和46年	名古屋市生まれ
平成 8年	名古屋大学医学部卒業
平成 8年	東京災害医療センター研修医（1年間）
平成 9年	東京医療センター研修医（半年）
平成 9年10月	厚生省保険局医療課（診療報酬改定（平成10年・平成12年）など）
平成12年 4月	環境省環境安全課（環境ホルモン、電磁波など）
平成15年 6月	ハーバード大学留学（MPH 取得）
平成16年 7月	厚生労働省食品安全部基準審査課 （アレルギー表示など食品表示、食品基準など）
平成17年 8月	厚生労働省障害保健福祉部精神・障害保健課 （障害者自立支援法、自殺対策基本法など）
平成19年 3月	医学博士取得（名古屋大学大学院）
平成19年 7月	厚生労働省大臣官房国際課（洞爺湖 G8サミット等）
平成20年 8月	WHO総務局渉外担当医官
平成23年 8月	厚生労働省健康局がん対策推進室長
平成24年 8月	厚生労働省食品安全部国際食品室長（TPP 等）
平成26年 7月	国際連合日本政府代表部参事官（現職）

〈厚生労働省医系技官〉

私は、国立病院で臨床研修した後に厚生省（当時）に入省し、行政官（医系技官）として働いてきました。もともと行政官として働くことは全く考えていませんでしたが、病院実習中にどの診療科に進むか悩んでいた時に、当時厚生省の幹部として働いていた名大医学部の先輩（小林秀資さん）を訪ね、臨床医とは違う形で医療に貢献することも大切な仕事であると感じたのがきっかけとなりました。5年間だけは頑張ってみて、もし自分にあわなければ研修医からやり直そう、という気持ちで厚生省に入ったのです。結果的に、食品安全、精神保健、環境保健、がん対策など様々な分野を経験でき、ハーバード大学公衆衛生大学院で学ぶ機会、ジュネーブにあるWHO 本部や現在のニューヨークの国際連合日本政府代表部（国連代表部）で外交官として勤務する機会を得て、気づけば今年で入省してちょうど20年になりました。医系技官は現在250人程度であり、医師の総数（30万人程度）のわずか0.1%未満を占めている稀少種です。ただ、私は医師としてのアイデンティティを保ちつつ大きなやりがいを感じながらこれまで仕事を続けてこられたことに感謝しています。

〈現在の国連代表部の仕事〉

上述のとおり、国連代表部で外交官として勤務してい

ます。国連代表部は、日本政府を代表して、「国連を通じた国際の平和と安定の維持への貢献」を行うために安全保障理事会など国連において交渉しています。

私が担当する保健分野はいずれの国においても重要な分野であるため、外交上高いプライオリティが置かれています。特に日本は国民皆保険制度があるなど他国に比し大きな強みを持っているため、昨年（2016年）日本が議長国をつとめた伊勢志摩 G7サミットやケニアで開かれたアフリカ開発会議（TICAD）でも保健議題を主要議題として取りあげるなど、我が国の外交政策の柱と位置づけています。このため、厚労省の医系技官である私



NY セントラルパークでジョギング

が保健分野の専門家として配置されています。

私は2014年7月に着任しましたが、この頃からエボラ出血熱が西アフリカで大流行し、国連として安保理決議の他、新たな組織や信託基金の設置などの大きな動きがありました。この中で、日本としてふさわしい貢献を行うため、現地のニーズを踏まえた支援、他国の支援状況、最新の科学的知見等の情報や分析結果を本国に提示するとともに、そうした貢献自体を発信し日本のプレゼンスを示すことが私の大切な仕事でした。

この他、総理や外務大臣、厚労大臣など日本の首脳・閣僚が国連総会等に出席する際に、各国や国際機関と様々な調整を行うことも大切な仕事です。2015年秋には、皇太子殿下が「水と衛生」分野において格式高い講演を国連総会議場で行い、各国から非常に高い評価をうけましたが、このご訪問に担当として関与できたことは思い出に残る大変貴重な経験となりました。

また、UN Women が主催する「HeForShe (彼女のための彼)」プロジェクトというジェンダー平等の取り組みにおいて、世界の10人のリーダーの一人に安倍総理が、世界の10大学の一つに名古屋大学が選ばれ、その関連で松尾名古屋大学総長が2016年の国連総会に来られた際には、卒業生として非常に誇らしい気持ちになりました。

〈名古屋大学在学中〉

在学中は正直言って勉強にはあまり真面目ではなく、出来の良い学生だったとは到底言えません。医学部のバスケット部で6年生までバスケットにあけくれた日々であり、キャプテンをつとめた5年生の夏に全医体（名古屋大学は西医体に属し、上位4校が全医体に進出）に出られたのがとても良い思い出となっています。

〈最後に〉

名古屋大学には、世界で活躍できる高いポテンシャルをもった人材がたくさんいるように感じます。良い意味でも悪い意味でも名古屋大学は地元率が高いわけですが、優秀な人材が地元を愛するあまり（笑）、あえて東京に出ずに名古屋に残っていることや、親元から近いところから安定した気持ちで勉強に打ち込める環境が整っていることにも関係しているかもしれません。

私は、これまで名古屋以外に、東京、ボストン、ジュ

ネーブ、ニューヨークで過ごしましたが、外に出たからこそ、日本の良さが、そして名古屋の良さに気づいたように思います。現在はニューヨークで一人暮らしをしていますが、大好きな味噌かつやきしめんなどを自宅で友人に振る舞いながら、名古屋を懐かしんでいます。

同じ名古屋大学の卒業生として、皆さんと学部の壁を越えてお会いする機会や一緒に仕事をする機会などがあることを期待しています。最後まで読んでいただきありがとうございます。



西医体での試合にて

同窓会ニュース NUAL News

大学支援事業目録贈呈

平成28年11月4日（金）、平成28年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成28年度第1回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、6件の応募総数から、表の6件が採択されました。

平成28年度第1回 採択事業

所属・職名等	申請者	事業名
学生相談総合センター・センター長	植田 健男	教職員用学生対応ガイドブック作成
総務部広報渉外課・課長補佐	大久保 淳	中高生、一般の方々に広く本学を知ってもらう大学見学
国際機構 国際教育交流センター 特任准教授	高木 ひとみ	大学の国際化に貢献する学生のためのエンパワーメントプログラム
工学部 機械・航空工学科 電子機械コース 3年	手嶋 悠介	名古屋大学宇宙開発チーム NAFT 宇宙教育活動の発展
名古屋大学博物館・研究員 (学芸員)	野崎 ますみ	「名古屋大学全学同窓会台湾支部設立5周年記念 台湾 朱振南 書画の世界 ―書による日台交流と後藤新平の再評価―」における関連イベント書画実演「書による日台文化交流」
工学部 環境土木・建築学科 環境土木コース 2年	森部 天仁	名古屋大学人力飛行機製作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場、優勝に向けての人力飛行機の製作、運用

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。



採択された事業代表者の方々

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、東京神田の「学士会館」地下にある名古屋大学東京連絡事務所にて、各部局同窓生幹事による幹事会を開催しており、全学同窓会の理念に沿って活動しております。

2016年度活動実績

1. 名大本部の幹事会、支部会、部局支部会への参加
・アジア法交流館落成記念講演会（3.11-12）・関西支部総会（5.14）・文科省公開シンポジウム（5.18）等
2. 第12回ホームカミングデー・各部局行事に参加
3. 第3回全学同窓会・学士会共催「講演会・夕食会」実施に協力。12月9日に、坂田・平田ホールにて濱口道成先生（全学同窓会顧問、学士会代議員、科学技術振興機構理事長、前名古屋大学総長）にお越しいただき「科学技術の課題と展望」につきご講演いただきました。
4. 学士会 会員増強委員会に参画し、名大総長・理事

などと展開中。学士会共催の「七大若手会」丹羽関東支部長「わたしの青春時代」講演（7.23）

5. 幹事会 東京オリンピック・パラリンピック大会で、山脇康幹事が日本パラリンピック委員長に就任されており、状況報告と支援・協力のお願ひがあります。（参照：月刊経団連2016.12）

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造
E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp



関東支部幹事会 学士会館にて

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、下記の日程で第12回総会、懇親会を開催いたします。

大学から松尾総長、和田代表幹事にもご出席いただきます。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

記

日時：平成29年5月20日（土）14時から19時

場所：中央電気倶楽部

（大阪市北区堂島浜2丁目1番25号 Tel. 06-6345-6351）

(1) 講演会、総会（5階大ホール）

1. ご挨拶 藤井眞澄（名古屋大学全学同窓会関西支部長）

2. 講演会

講演者：二村幸基（三菱重工業（株）執行役員
フェロー防衛・宇宙ドメイン技師長）

題 目：未定

3. 総会

和田壽弘（名古屋大学全学同窓会代表幹事）

全学同窓会活動報告

松尾清一（名古屋大学総長）

題 目：未定

(2) 懇親会（3階大食堂）立食形式（予定）

関西在住会員の皆さまには、追って講演内容、参加費等の詳細を、個別にご案内いたします。

また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

■連絡先 関西支部事務局長 脇田喜智夫
御所南法律事務所 TEL075-253-0777
E-mail office@goshominami.jp

（建制順）

関西名法会 （法学部）	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成29年9月30日（土） 講演会 11:00～12:00 昼食・懇親会 12:00～13:00
	場所	中央電気倶楽部 住所：大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL：06-6345-6351
	講演者	未定
	演題	未定
	責任者	会長）脇田喜智夫（S50卒）
問合せ先	名法会事務局）office@goshominami.jp	
共晶会 関西支部 （工学部 金属・鉄鋼・ 材料工学系）	恒例行事	年1回の総会・講演会・懇親会
	今年度の総会予定	
	開催日時	平成29年3月11日（土） 11:00～14:00（10:30受付開始）
	場所	阪急ターミナルスクエア・17（阪急梅田駅上 阪急ターミナルビル17階 TEL06-6373-5790）
	ご来賓	佐野正道名誉教授、平澤政廣教授
	会費	（当日徴収）学卒年次・平成9年以前：7,000円、 平成10年以降5,000円
	連絡先	（株）神戸製鋼所 佐野研一（TEL：079-436-1350 FAX：079-436-1353 携帯電話：090-3582-7125 E-mail：sano.kenichi@kobelco.com）

国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科同窓会では、2016年10月15日（土）のホームカミングデーで市民公開講座「教授者の専門性を活かした言語教育」を開催しました。今回は外国語教育の最前線で活躍する8名の講師と共に教育研究の在り方について考えました。参加者は97名でした。講師と講演のタイトルは次のとおりです。

- ・司会：勝川裕子（東アジア言語文化講座准教授）
- ・志波彩子（応用言語学講座准教授 / スペイン語）
「日西対照研究と言語教育」
- ・呉禔受（名古屋大学国際言語センター非常勤講師 / 日本語）
「言語教育、何を重視するか：二つ以上の言語環境にいる子どもと大人のために」
- ・謝平（立命館大学言語教育センター嘱託講師 / 中国語）
「中国語文法研究とコミュニケーション能力の育成」
- ・西川智之（ヨーロッパ言語文化講座教授 / ドイツ語）
「学生の関心を引き付けるには？」
- ・尾関修治（アメリカ言語文化講座教授 / 英語）
「ICTを活用した英語授業：仕組みと効果」
- ・宇都木昭（東アジア言語文化講座准教授 / 朝鮮・韓国語）
「研究から教育へ、教育から研究へ」
- ・柳沢民雄（東アジア言語文化講座教授 / ロシア語）
「ロシア語と私」
- ・飯野和夫（多元文化論講座教授 / フランス語）
「思想・文学研究とフランス語教育」
公開講座の後はオープンホールでティーパーティーを行いました、修了生・在学生・教員の交流を行いました。

■連絡先 国際言語文化研究科教授 杉村 泰
E-mail sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp
http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/



修了生の講演

フィリピン支部 NUAL Philippine Branch

フィリピン支部では、2017年1月29日にフィリピン大学デイルマン校の National Institute of Molecular and Micro-Biology にて総会と新年会を行いました。

そこで、2017～2018年の新役員が選出されました。

新支部長は Dr. Pag-asa Gaspillo (デ・ラ・サール大学教授) で、前支部長の Dr. Cristino Collado は、顧問として残っていただくことになりました。

The NUAL Philippine Branch held the general assembly and *shinenkai* last Jan. 29, 2017 at the National Institute of Molecular and Micro-Biology (NIMMB, UP Diliman, QC. The new set of officers for 2017 and 2018 were elected. Dr. Cristino Collado (President 2015 & 2016) will serve as adviser.

※新役員は以下の通りです。

New Officers (2017 and 2018)

President (支部長) :

Dr. Pag-asa Gaspillo (D.Eng, 1995), Prof. DLSU

Vice President (副支部長) :

Dr. Cynthia Palmes-Saloma (BS Mol. Bio 1993), Prof. UPD

Secretary (事務局長) :

Dr. Andres Oreta (D.Eng. 1994), Prof., DLSU

Asst. Sec. (副事務局長) :

Dr. Ron Vilog (GSID), Assoc. Prof., DLSU

Treasurer (会計) :

Daisy Montesa (Japanese Lang, 1989), Retired

Asst. treasurer (会計補佐) :

Sherry Ivy Valenzuela (M. Env. Eng. 2014), MMDA

PRO (渉外) :

Dr. Marcos Valzedz, Jr. (D. Agri. Sci., 2010), Research Fellow, FEU

Auditor (監査) :

Dr. Joseph Masangkay (PhD, 1983), Prof. Emeritus, UPLB



新役員の皆様

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

「名古屋大学の大先輩」 コレクションの形成と展示会の開催

申請代表者：濱嶋信之
(附属図書館医学部分館長・医学系研究科 教授)

「名古屋大学の大先輩」コレクションは、明治4年（1871年）の名古屋大学創基から、昭和22年（1947年）の名古屋帝国大学が名古屋大学へと改称されるまでの、本学の前



企画展大正昭和編 名大総長と理事の観覧

身校に在学、在職した後藤新平をはじめとする著名人に関連する、入手が困難になりつつある古書も含めた図書、文書、写真、絵葉書等によるコレクションである。

助成金により収集したコレクションは、医学部史料室（附属図書館医学部分館4階）に配架し、全学同窓生、在学生、教職員はもとより、市民にも公開している。また、コレクションに関連した企画展および特別講演会をそれぞれ2回開催し、同窓生と在学生、教職員の交流の場となった。

また、「名古屋大学の大先輩」コレクションは、順次「近代医学の黎明 デジタルアーカイブ」に登録し、インターネットでも全文が読めるようにしており、社会に開かれた大学として情報発信している。

アジア中枢人材育成の今 — 私たちができることは? —

申請代表者：伊東早苗
(国際開発研究科 研究科長/教授)

野依記念学術交流館において、大学院国際開発研究科（GSID）創立25周年を記念し、国際シンポジウムが開催

された。当初提案した国際シンポジウムの名称は若干変更し、「新時代の国際開発研究と教育：持続可能な開発目標とその先」("A New Era of Development Research and Teaching: The SDGs and Beyond")とした。国際開発学の学術分野における世界的権威であるデビッド・ヒューム教授(マンチェスター大学グローバル開発研究所長・英国開発研究学会長)の基調講演および世界各国で政策立案に携わっている国際開発研究科修了生による円卓会議を通じ、同テーマに対する活発な議論が行われた。

国際シンポジウムには38か国から250人の参加があり、その多くは本学同窓会会員であった。その様子は、海外同窓生の助けを得て、ウズベキスタン、カンボジア、タイ、インドネシア、フィリピンにライブ映像配信された。また、シンポジウム後に催された懇親会で、円卓会議のパネリストを国際開発研究科同窓会の親善大使に任命し、全学同窓会と連携して国際的なネットワークを築いてもらえるよう依頼した。創立以来、合計1,879名を数える研究科同窓生の多くが世界中で活躍しており、彼らが本学の貴重な財産であることを改めて強く感じる事業となった。本事業の実施をご支援いただいた全学同窓会には、心より感謝を申し上げたい。



国際シンポジウム記念撮影

Iwatani スペシャル 鳥人間コンテスト 2016

申請代表者：海野貴之
(工学部物理工学科3年)

私たち AirCraft は人力飛行機を製作し、鳥人間コンテストに出場しています。2016年度プロジェクトではタイムトライアル部門の優勝を成し遂げました。昨年は大会直前の試験飛行で機体を大破させ、棄権せざるを得ませんでした。この時はチームの士気も下がり、大会賞金を手にできなかったことで資金難にも陥りました。そこで、同窓会支援事業に応募させていただきました。新機構を導入したことで例年より製作は遅れましたが、ゴールデンウィーク頃には機体を完成させ、試験飛行



琵琶湖上でのフライト

に臨むことが出来ました。試験飛行でも大きな破損はなく、大会当日も天気にも恵まれました。私たちが出場するタイムトライアル部門はスタートラインから500m先のターンマークを旋回し、帰ってくるまでのタイムを競います。ポイントとなるのは旋回で、確実さと速く回ることが求められます。多くのチームがここでバランスを崩して墜落するか、大回りしてタイムを失う中、私たちは綺麗な旋回を成功させました。そして、歴代3位の記録で優勝を果たしました。去年の無念と今までの苦労が報われる優勝に感極まりました。これからも記録の更新を目指し一同励んでいきます。最後になりましたが、私たちの活動を支援して頂いた同窓生の方々に感謝いたします。

人力プロペラ機タイムトライアル部門 優勝
優勝タイム 1分46秒11 (歴代3位)

アジアに向けた情報発信・名古屋大学プロモーション冊子の発刊

申請代表者：玉井克幸
(学術研究・産学官連携推進本部 リサーチ・アドミニストレーター)

名古屋大学全学同窓会大学支援事業のサポートにより、本学のアジア諸国でのビジビリティをさらに高めることを目的とする「NU Global Challenge Hand-in-Hand with Asia Voll. Thailand」と題した本学プロモーション冊子を作成した。今号はアジア諸国の中でも、特にタイに焦点を当て、タイの研究者、企業の方々に興味を持って読んでもらえるようタイの研究者が好むキーワードや、タイ在住の本学OBのインタビュー記事も盛り込みながら、本学とタイの大学との共同研究の事例等を紹介している。これまでに在日タイ大使館へ送付し、本学とタイとの連携の様子をアピールするとともに、11月22日のチュラポン王女(タイ王国)の本学表敬訪問に際しては謹呈することもできた。今後、本学バンコク事務所とも協働し各種イベントにて配布するとともに、本学教員がアジアでのネットワークを広げる際のツールとして利用する。尚、本冊子は附属中央図書館内で自由に閲覧でき、また、機関リポジトリにも登録したことで、国内外を問わずどこからでも電子版の閲覧・ダウンロードが可能である。

本冊子により、本学のビジビリティ向上に多少なりとも貢献できるものとするが、今後はタイとの共同研究や若手研究者のリクルートに繋げるなど、本冊子の効果をより具体的な成果に結び付ける活動を継続する。また、これを端緒に、Vol.2以降の作成を進める予定である。



NU Global Challenge Hand-in-Hand with Asia Voll.1. Thailand

ガーナの学校の自立支援事業

申請代表者：土橋啓泰
(国際開発研究科2年)

今回のガーナ渡航で、NGOの目標である孤児院の自立が達成できる大きな一歩を踏み出すことができた。まず、孤児院が春に植えた農作物が十分に管理されていたことから、収穫後の行動計画をたてた。現在最も力を入れている、大規模の農地プロジェクトでは、今まで、経営者と連絡が上手に行えていなかったことが理由で、実行が遅れていた。しかし、実際に渡航したことで、学校の経営者と幾度にもわたる話し合いを行うことができた。この結果、農業を行うあたり必要な機材の購入などを行い、無事にスタートを切ることができた。学校の自立を達成させるという挑戦を成し遂げるために、今回のガーナへの渡航はNGOの渡航の中でも最も意味のある渡航になった。

また、私以外に、NGOのメンバーでもある学生1人のガーナ渡航を実現させ、行動を共にした。同行した学生にとって初めての途上国への渡航であったが、本人曰く、とても充実した生活を送ることができ、より国際協力に興味を持ったという。

今回の渡航では私の渡航にかかわる航空運賃とビザ申請費用を支援していただいた。同窓会の支援がなければ、金銭的な問題から私のガーナへの渡航は叶わなかった。そうなれば、経験者不在のため、同行した学生もガーナに行くことをあきらめることになっただけでなく、NGOが前進するための計画が大幅に遅れることが予想された。そのため、同窓会にご支援いただけたことに強く感謝している。今回の渡航を通じて、前回のニューズレターにおけるNGOの紹介や、ホームカミングデーにおけるガーナを始めるアフリカの国々を一般の人に発表する機会に恵まれた。今後は、今回収穫した経験を多くの人に広げることに徹するため、さらに学内外のイベントを通してガーナをもっと身近に感じることができる環境作りにさらに力を入れて取り組んでいく。



ガーナの学校で

TEDxNagoyaU

申請代表者：班 澤昆
(情報文化学部社会システム情報学科3年)

Eureka!——古代ギリシャ語で「見つけた!」という意味を持ち、かのアルキメデスが浮力の原理を発見した際に思わず

叫んだとされる言葉です。私たちの新鮮な驚き、そして発見の感動を表しています。TEDxは、アイデアや人、あるいは自分の秘めた可能性との出会いの場です。Eureka!——新しい何かに出会ったとき、私たちはこう叫ぶ。この一声が、はじまりの合図です。どこへ向かうかはあなた次第!!!

2016年のTEDxNagoyaUは「Eureka!」がテーマです。TEDxNagoyaUとは世界的プレゼンテーションカンファレンス「TED」に共感し、名古屋大学からも価値あるアイデアを発信したいという名大生を中心とした、20人程度の運営委員によって開催しているイベントです。社会で活躍する方の経験豊富なアイデアと学生の突飛で新しいアイデアが名大から世界へ広がっていくことが私たちの目指すものです。

今回は5月に開催した「学生スピーカーオーディション」にて選出された2名の学生を含め、8名の方に登壇していただきました。若者と政治をつなぐ活動をしている原田さん。会話に焦点を当てた学生団体を設立した高校生の谷口さん。日本で唯一のCMFデザイン事務所の代表である玉井さん。英語でSlackivismについての考えを述べた留学生のイワナさん。若者の移住支援を行っている名古屋大学の高野教授。柔軟な発想で斬新な活動をする名古屋大学情報文化学部の江坂さん。子どもたちの未来のために「希望新聞」を発行している細川さん。近年の食に対する意識変化に警鐘を鳴らした野田さん。皆様のトークはYouTubeで生中継し、編集したトーク動画もYouTubeにて世界に公開されます。

私たちは「交流」を促すためのアイスブレイクとして、各グループに「Eureka!」がテーマの感嘆符を模したイラストを描いていただきました。次に、受付で撮影したチェキ写真と各自のアイデアを書いたカードを側面に貼ったクリアボックスを展示しました。最後にはTEDxロゴが入った風鈴の短冊に、「TEDxNagoyaUを通して得られたEureka!」を書いていただき、窓の近くに飾った後、お帰りの際に先ほどのクリアボックスに入れてプレゼントとしました。アフターパーティでは全ての方が料理や飲み物を片手にリラックスして交流していました。

この度は、名古屋大学全学同窓会平成28年度第1回支援事業として支援していただけたおかげで、スムーズな開催と今後への投資ができました。価値あるアイデアを広げていくことがこれからも続くよう繋げていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



集合写真

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 第10回東山会関東支部総会

日 時：平成29年5月13日（土）13時より

場 所：学士会館

〒107-0062 東京都千代田区神田錦町3-28

特別講演：松尾 清一 名古屋大学総長

「名古屋大学の現状と未来－NU MIRAI2020
について－」

詳細は東山会関東支部総会 HP (<http://www.higashiyamakai-kanto.com/>) にてご確認ください。

2) 名古屋大学医学部学友会首都圏支部総会

今回は、来賓として名古屋大学腎臓内科教授の丸山
彰一先生と大阪大学生命機能研究科 幹細胞免疫発生
研究室教授 長澤丘司先生をお願いいたしました。

日時場所：平成29年7月8日（土）学士会館で夕方4時よ
り開催いたします。

総会および講演会そしてその後の懇親会と
して会費12000円です。

主 催 名古屋大学学友会首都圏支部会

連絡先 支部長 松田達男 090-9206-0567
matudatatuo@gmail.com

3) 共晶会関東支部講演交流会

第32回の会を開催します。ご出席、ご連絡をお待ち
します。

日 時：平成29年11月12日（日）11:00～14:30

場 所：学士会館 302号室

講 師：未定（名古屋より招聘の予定）

連絡先：共晶会関東支部事務局長
黒岩和典
kuroiwa779618@gmail.com

4) 平成29年度 鏡ヶ池会東京支部総会

土木系卒業生の同窓会である鏡ヶ池の東京支部（会
員600名以上）の年間最大行事である支部総会です。毎
年90名を超える参加があり、老若問わず交流していま
す。今年度の開催予定は下記のとおりです。

日 時：平成29年11月17日（金）18:30～20:30

場 所：主婦会館プラザエフ 地下2階 クラルテ

<http://www.plaza-f.or.jp>

〒102-0085 東京都千代田区六番町15番地

TEL 03-3265-8111（代表）

今年も数名の先生方にご出席していただく予定です。

連絡先：幹事 鹿島建設株式会社

支部長：鹿島建設株式会社 横浜支店 土木部 中島清

〒231-0011 横浜市中区太田町4丁目51番地

TEL 045-641-8848

E-mail：nakajiki@kajima.com

5) 第20回名古屋大学農学部同窓会関東支部 総会 （支部創立40周年記念大会も兼ねる）

日 時：平成29年12月2日（土）13:10～17:10

場 所：学士会館 203号室

東京都千代田区神田錦町三丁目28番

主 催：名古屋大学農学部同窓会関東支部

U R L：<http://www.nua-alumkanto.net/index.html>

連絡先：E-mail：alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

○名大遠州会第22回同窓会

日 時：平成29年6月10日（土）18:00～20:30

受付 17:30～18:00

場 所：オークラアクトシティホテル浜松

連絡先：名古屋大学遠州会同窓会事務局長 原田憲道

E-mail：ensuhurd@yahoo.co.jp

○名古屋男声合唱団 Autumn concert 2017 開催のお知らせ

主 催：名古屋男声合唱団

後 援：名古屋大学、名古屋大学全学同窓会、
名古屋大学男声合唱団同窓会

日 時：平成29年9月30日（土）14:00開演

場 所：豊田講堂

出 演：名古屋男声合唱団

入場料：1,500円

問合せ先：名古屋男声合唱団演奏会実行委員長 古田敬二

E-mail: soumu@nagoyadansei.main.jp

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号: 00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**14,500名**を超えています。



年会費永年無料!

家族会員様も1名様に限り無料。

ポイントがたまる!

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

◆名古屋大学 MUFG CARD Platinum American Express® Card

プラチナ会員様限定の上質なサービスと快適性を兼ね備えた、最高の1枚。

- プラチナ会員様専用の特別なサービスを多数ご用意



～プラチナ会員様専用の特別なサービス～

- ・プラチナ・コンシェルジュサービス
- ・海外空港ラウンジサービス プライオリティ・パス
- ・プラチナ・グルメセレクション
- ・セントレア バレーパーキングサービス
- ・手荷物空港宅配サービス

〔家族会員年会費〕1名様は無料。2名様より1名につき、3,000円(税別)

入会方法について

① WEBからのご入会を希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX: 052-783-1920 (受付: 9:00~17:00)

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エクスプレス®・カードはアメリカン・エクスプレスのライセンスに基づき三菱 UFJ ニコス株式会社が発行・運営しております。「アメリカン・エクスプレス」はアメリカン・エクスプレスの登録商標です。

●カード優待サービスの企業を募集しています。

●ニューズレターへの企業広告を募集しています。

いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

長年代表幹事を務められた伊藤先生には全学同窓会行事のご報告等のご寄稿はもとより、編集作業に関して多大なご支援とご指導をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。和田先生の新体制のもと、今後も充実した誌面を提供できるよう取り組んでまいります。卒業生の皆様の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.27 平成 29 (2017) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集: 名古屋大学全学同窓会広報委員会